

## 釧路市立中央小学校 フィールド学習 2 回目 実施内容

### 《概要》

[日程] 2022年8月25日(木)

[参加者] 5年生児童23名

[案内] 温根内ビジターセンター 藤原指導員

[フィールド学習の目的]

- ・各児童の課題に応じて、目的を持ってフィールドでの観察を行う。
- ・1回目の訪問時からの変化も感じながら自然を観察し、新たな発見を得る。

[実施プログラムの概要]

9:05 温根内ビジターセンター駐車場到着

9:25 オリエンテーション

9:30 温根内木道での活動

11:50 トイレ休憩後、温根内ビジターセンター駐車場出発

### 《実施内容(記録)》

#### ■オリエンテーション(9:25)

#### ○プログラム、木道での注意点の説明

#### ■温根内木道での活動(9:20)

##### ○ヨシ

前回見た時と違うところがある。背が高くなった。赤茶色い穂のようなものが付いた。もうすぐヨシの花が咲く。花といっても目立つ花と目立たない花があることを覚えておいてもらいたい。もう少しふわっと開いて花粉を飛ばす。



##### ○ヤチマナコ

(児童が何人か交代で棒で深さを確かめる)カラフトノダイオウやドグゼリを前回見たが覚えているだろうか。花が終わって実が付いている。また、ミゾソバとって、ソバと同じ仲間。ミゾとは水があるような場所に生えるソバの仲間なのでこうした名前が付いた。葉の形から別名牛の額と言う。葉が牛の顔に見える。ちょうどピンクの花が咲いている。

##### ○ホザキシモツケ

花が終わって種が付いている。ピンク色の花が集まって咲いているのを前回観察したが覚えているだろうか。



##### ○野鳥のさえずりについて

子どもがちゃんと生まれた家族は子育てをしている時期で、茂みの中に隠れている。今の時期はあまり鳴かない。7月くらいまで元気よく鳴いていたのは、オスがメスを誘うためにさえずっていた。もう結婚して子どもも生まれて激しく鳴く必要がなくなった。少し時期は早いですが、渡ってきた鳥はもうそろそろ南に戻ろうと準備をしている。9月に入ると、南に

移動し始める。鳥がいないわけではなく、静かに茂みの中に潜んでいたりする。前回と比べて、湿原での音の違いもある。

盛んに聞こえてくるセミの声は、コエゾゼミのもの。

### ○チャミダレアミタケ

今見えている木はハンノキ。ハンノキにキノコが生えてきた。シイタケやエノキダケと違って、とても硬く、また、食べられない。キノコは菌類といって、植物を分解していく役目がある。キノコが生えているこの木は枯れているが、枯れた木を分解して土に還すという役割を持っている。

### ○ヒメカイウ

前回観察した葉を覚えているだろうか。今は赤い実になっている。少し毒があり食べることはできない。

### ○サワギキョウ

不思議な花の形をしており、花の奥にある密を探しに行く時に背中に花粉が付くようになっている。最初は雄しべが出ていて花粉を出す、その後、雄しべを押し出して、次に雌しべが出てくる。時間差で雄から雌に変わる。花は出来るだけ他の場所から花粉が欲しい。その方が多様性が生まれる。できれば自分の花粉を雌しべに付けたくないの、先に雄しべを出して、その後雌しべを出すという賢い戦略を持っている。



何段も花が咲き、下から順番に咲いていき時間差で花粉を出す。雄しべと雌しべを同時に出す花もあれば、時間差で変わるものもある。

### ○ハネナガキリギリス

鳴いているのはオスでメスは鳴かない。羽根をこすらせて音を出している。鳴いているというよりは音を出しているということだが、鳥と同じように、この音でメスをおびき寄せている。晴れた日にキリギリスと出会える。メスが木道に出てくることもあるので、注意して歩いて欲しい。

### ○カキツバタ

紫の花が咲いていたことを覚えているだろうか。花はだいぶ前に終わり実がないか探しているが見当たらない。葉にシカの食べた跡があるので、恐らくシカが食べたのかと思う。

### ○ガマ

7月に来た時はただの葉だった。フランクフルトのように見えているこげ茶色のものを良く見ると、先に細いものが付いているが、これが雄花だったもの。フランクフルトは雌花。雄花が花粉を出した後、先の部分は無くなり、雌花が実を付けてこれからどんどん膨らみ、綿毛を出す。今年は多く出ているが木道から届く距離がなく、触ることができないが、触るとタワシの様な感触。ごわごわして硬い感じがする。



## ○タヌキモ

名前をタヌキモと言ひ、良く見ると黒い粒々が付いている。粒々を捕虫囊と言ひ、プランクトンを吸い込む機能がある。これも一種の食虫植物。空のものは透けており、センサーのようなヒゲにプランクトンが触れると吸い込み、ゆっくりプランクトンを溶かして自分の栄養にする。春先に見ると、タヌキの尻尾のように見えたことから、タヌキモという名前が付いた。正確には藻の仲間でもない。黄色の小さな花も咲かせ、花粉を運ばせて種も付ける。前回見たモウセンゴケは葉のネバネバで虫をつかむタイプだが、これは吸い込むタイプ。今時期は先っぽが丸くなっていて、もう少しすると丸い部分に塊り冬を越そうとする。越冬芽と言ひ、越冬するための芽をつけて静かに冬を過ごす。水中を漂うので、引き上げても戻してあげれば復活する。

## ○本州と北海道に住む動物の違いに関するお話

北海道にしかいない、本州にしかいない動物がいる。どちらにもいるという動物もいる。それらを考えてイラストを地図に貼ってほしい。(シマリス、タヌキ、イノシシ、カモシカ、キツネ、ヒグマ、ツキノワグマ、ニホンザル、シマフクロウ、タンチョウなどのイラストカードを地図に貼る。それぞれ答え合わせと解説。)タンチョウは一番難しく、両方にいるが正解。タンチョウは日本だけでなく中国にもロシアにもいる。タンチョウは渡り鳥で、移動の途中で本州に迷い込む時がある。本州に来ることがある以上、学術的には両方にいるということになる。



## ○ゴキヅル

漢字で書くと合器蔓という字を書く。器を合わせるツルという字。実を良く見ると器を合わせているような形になっていて、ツルのように巻き付くので、このような名前になっている。

## ○ハネナガキリギリス

後ろから捕まえようとする前に逃げると思っ  
て捕まえる。(木道上のキリギリスを捕獲)針の  
ようなものが産卵管と言う。オスにはなく、メス  
の特徴。木道の隙間に差して卵を産む。土の中や  
生えている木の間に産んだりもする。木道の間が  
ちょうど良いようで、良く産卵する。間近で観察  
できることは珍しいので、良く見てみて欲しい。



## ○サワシバ

この実を覚えているだろうか。7月に見た時は緑色だったが、ところどころ茶色になっており、種が開いてきている。もう少しすると風に揺られて落ちてくるが、種についた羽根がプロペラのような形をしているので回転しながら落ちてくる。出来るだけ風に乗って遠くに遠くに飛ばそうとする。

## ○エゾトリカブト

今日見る最後の植物。紫の非常に綺麗な花を付けるが猛毒。根が最も毒が強いが、アイヌの人たちは根をドロドロに煮出して矢の先に塗って毒矢にして、キツネ、タヌキ、シカなどに突刺すと毒が回って動けなくなる。花が付けば間違えることはあまりないが、葉が出始めの時は非常に似た山菜があり、間違えて食べてしまうことがある。全国でも亡くなったり救急車で運ばれるという事例もある。もうすぐ花が終わって種が出来る。ドクゼリやサワギキョウも毒を持っているもののシカは食べるが、さすがにシカもトリカブトは今のところ食べない。



■トイレ休憩後、温根内ビジターセンター駐車場出発（11：50）